石清水八幡宮の祭神と歴史

石清水八幡宮は、日本と皇室の守護神である八幡神を祀っています。八幡神は、日本の伝説的な 15 代天皇である応神天皇の神格化された形態であり、その母である神功皇后と、海に関連する 3 人の女神である比咩大神とともに一つの存在として信仰されています。

八幡神は、859 年に僧侶の行教によって九州の宇佐神宮から男山に遷座され、860 年には新しく建てられた社殿で正式に祀られました。八幡神は皇室の神聖な祖先であると考えられており、天皇と上皇の両方が彼を崇拝し、何世紀にもわたって石清水八幡宮に 240 回以上の壮大な巡礼を行いました。権勢を誇った武家の源氏も八幡神を守護神と見なしていました。彼らの支援を受けて八幡神の神社は全国に広がり、日本で 2 番目に多くなりました。

何世紀にもわたって、神道と仏教は神仏習合の形で信仰されており、そしてその間、八幡神は神道と仏教の両方の側面を持つ神として広く信仰されていました。19 世紀に政府の命により二つの宗教が分離され、それ以来、石清水八幡宮では八幡神を神道の神である八幡大神として祀ってきました。

石清水八幡宮の最も重要な儀式は、9 月 15 日に開催される石清水祭です。この儀式は、勅命により開催され、天皇の代理人が指定された神社でお供え物と祈りを捧げる儀式である勅祭として、長い歴史を持っています。この儀式の間、神々は 3 つの神輿に移され、男山のふもとに運ばれ、そこで天皇の使者が平和と国の保護のために祈祷を行います。この公的な祭礼には、伝統的な音楽や舞楽を行うほか、石清水八幡宮がもつ神仏習合のルーツを反映した仏教の儀式がもとになっている、囚われた鳥や魚を解放する儀式も含まれます。